

モデルプログラム B-4 外国人児童生徒等教育の背景・現状・施策  
-外国人児童生徒等が在籍する学校・日本語教室の実際-

ねらい	外国人児童生徒等が生活し、学習している学校とその日本語教室を参観したり、管理職・担当者の話を聞いたりして、訪問した学校の受け入れ・指導の体制、教育・支援の内容と方法、教員・支援員の役割について知る。学生は、自分自身はどのように関われるか、関わりたいかを考える機会にする。現職教員等は、自身の地域・学校の外国人児童生徒等教育や日本語指導を再検討する機会にする。
対象	<input checked="" type="checkbox"/> 教師を目指す学生（教員養成課程他） <input checked="" type="checkbox"/> 日本語教育を学ぶ学生 <input checked="" type="checkbox"/> 現職日本語指導担当教員 <input type="checkbox"/> 現職一般教員 <input type="checkbox"/> 管理職 <input type="checkbox"/> 指導主事 <input checked="" type="checkbox"/> 日本語支援員／母語支援員
日本語指導・外国人児童生徒等教育の経験	<input checked="" type="checkbox"/> 経験なし <input checked="" type="checkbox"/> 1年目 <input type="checkbox"/> 2-4年 <input type="checkbox"/> 5-9年 <input type="checkbox"/> 10年以上
高めたい資質・能力	<input checked="" type="checkbox"/> 捉える力（子どもの実態把握） <input type="checkbox"/> 捉える力（社会的背景の理解） <input type="checkbox"/> 育む力（日本語・教科の力の育成） <input type="checkbox"/> 育む力（異文化間能力の涵養） <input checked="" type="checkbox"/> つなぐ力（学校作り） <input type="checkbox"/> つなぐ力（地域作り） <input type="checkbox"/> 変える／変わる力（多文化共生社会の実現） <input type="checkbox"/> 変える／変わる力（教師としての成長）
主な内容	B 外国人児童生徒等教育の背景・現状・施策 C 学校の受け入れ体制
活動形態	<input type="checkbox"/> 講義型 <input type="checkbox"/> 活動型 <input checked="" type="checkbox"/> フィールド型 <input type="checkbox"/> 実習
時間	120分（移動等の時間を含まない）
流れ（・項目）	活動（◇活動の工夫）
1. 日本語教室訪問の準備をする。（20分） ・外国人児童生徒等の現状と背景（B） ・外国人児童生徒等施策（B） ・自治体の指導体制（C）	1. 日本語教室の訪問に際し、以下の点について理解、確認する。 ・近年、外国人児童生徒等をめぐる制度上の変化が起きていること ・以下の内容に関する講義を通して日本語教室について理解する。 当該地域の日本語指導体制 訪問する学校の状況 ・学校訪問に際しての留意事項を確認する。 ・見学時の視点、インタビュー内容を（グループごとに）話し合う
2. 日本語教室を訪問する。（60分） ・校内の指導体制（C） ・来日の社会的歴史的背景 ・地域の特徴（B）	2. 日本語教室を訪ね以下の活動を行う。 1) 日本語指導の様子を参観し、子どもの状況を知る。 2) 日本語教室担当の教員の話聞き、訪問校の状況を理解する。 ・学校の受け入れ・指導体制について 受入れ状況、特別の教育課程の実施、評価の方法など ・児童生徒について 出身国・地域、来日の背景 日本語や教科の学習状況 ・日本語教室の運営について 指導内容、指導方法、在籍学級の先生との連携 ・地域の支援の有無 地域のボランティア団体、児童生徒が支援をうけているか
3. 見学した日本語教室について報告する。（30分）	3. グループごとに学校訪問の結果をポスター等にまとめて発表する
4. 外国人児童生徒等の受入れ状況について確認する。（10分）	4. 教室訪問の報告を受け、講義を通して以下の点を確認する。 ・外国人児童生徒等の受入れの状況は地域によって異なること ・在籍数の多い学校では日本語教室が設置されていること ・子どもにとっての日本語教室の役割
備考	・このプランには、移動時間は含まれていない。 ・学生対象であれば、外国人児童生徒等が学ぶ地域の日本語・学習支援教室など

	を訪問する活動も、現状を理解する上では有効である。
--	---------------------------